

1月9日、中野小学校体育館で第49回邑楽町上毛かるた大会が行われました。各行政区代表の小・中学生468人が個人戦や団体戦に分かれて熱戦を繰り広げ、日ごろの練習の成果を発揮。優勝、準優勝者・チームは、板倉町で行われる郡大会に出場します。斉藤ららさん(新中野・33区)は、「初めて優勝できたので、とてもうれしかったです。郡大会では、ベストを尽くして頑張ります」と話してくれました。



踊る舞う形の群馬県。ハイッ!

初日の出に1,000人



1月1日、多々良沼公園内の浮島弁財天神社で初日の出を見るイベントが行われ、新中野八木節保存会による八木節や関東学園大学附属高校の生徒による和太鼓が披露されました。家族連れなど約1,000人の皆さんが訪れ、思い思いに初日の出を楽しんでいました。

七福神巡りで福来たる



1月8日、15日の2日間、上州邑楽七福神を愛する会による上州邑楽七福神巡りが行われました。2日間で160人が参加し、町内7か所の寺社を巡りました。杉山守さん(寺中・26区)は、「2回目の参加ですが、町内の自然と文化財を楽しみながら歩くことができました」と話していました。

孫と一緒に楽しむとき



1月18日、高島幼稚園で祖父母と遊ぶの会が行われました。園児たちは、たこあげやこままわし、かるた、折り紙などで楽しいひとときを過ごしました。栗田初恵さん(藤川・16区)は、「孫と一緒に、こままわしをしました。この日を、とても楽しみにしていました」と話していました。

町の歴史 連載三百五十一回

町の年代記

細谷清吉(歴史研究者)

藤川城

邑楽郡は律令制の大和時代からの郡名ですが、平安時代に庄(荘)園名として佐貫庄とも呼ばれました。邑楽郡佐貫庄の西部に、古河公方足利成氏の意向として富岡直光が小泉城を築きました。直光の子秀光の時、小泉領の東北端に当たる藤川に出城が築かれました。富岡氏文書の中から書き下し文によると次のように出ています。

「秀光(小泉二代城主富岡六郎玄蕃頭秀光)は大永年中(一一五二)から、佐野城をおさえるため、藤川に砦を構う。東西六十間、南北九十三

間、外に土居あり、障幅(からばりの)はば、五間をめぐらす。長臣小林河内守義知をして、これを防ぎ、ひそかに敵地を察せしむ」

小泉二代城主秀光も古河公方二代足利政氏に仕えていました。古河公方に反対する佐野城をおさえるため、藤川に出城を築きました。城主として富岡一族の重臣小林河内守義知をさし向け、敵状をさぐらせました。

藤川城は、今の豊原にあり、小林市之進氏の屋敷がほぼ本曲輪でありました。

明治二十二年の邑楽郡町村誌材料を見ると、明治九年政祖に際し、上木戸・中曲輪・寺曲輪・新田の四字を合併して豊原と改む」とありますから、合併以前のの上木戸・中曲輪・寺曲輪の三字が当時の城跡を示す地名であります。上木戸は足利一赤

岩鼻道の藤川橋通りにあり、石打の松本と境を接する所までで、ここには城を守る上木戸が設けられておりました。中曲輪は城の中央部で、今も土塁や堀跡を残す小林家の屋敷になっています。寺曲輪は城の東南を定める今の高正寺のある所で、堀や土塁をめぐらしていたところですが、その東北が八幡山という小高い岡で、その頂には若宮八幡社があります。上木戸に対して東の村境にも、下木戸が設けられて城の守りをなしていたはずで、新田という字地は新しく江戸時代に開いた田地です。

藤川城は、石打城の後林から正伝寺跡の松本、藤川の豊原、千原田へと連なる台地で、北から東にかけて矢場川が流れ、佐野に対する小泉城の守りをなしていました。



藤川城跡の塁壕(中世の邑楽町より)